

2019 年度 小委員会活動成果報告

(2020 年 2 月 7 日作成)

小委員会名	木造建築物の耐久設計小委員会		主 査 名：中島 史郎 就任年月：2019 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	材料施工委員会 (耐久・保全運営委員会)		委員長名：橘高 義典 主 査 名：鹿毛 忠継
設 置 期 間	2019 年 4 月 ～ 2023 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>木造建築物の耐久設計については、1980 年から実施された建設省総合技術開発プロジェクト「建築物の耐久性向上技術の開発」においてその基盤が整備された。その後、多くの調査研究に基づく新しい知見が得られ、現在の木造建築物の耐久設計に活かされている。</p> <p>1980 年から約 40 年が経過した現在、この間に蓄積された知見を取りまとめ、木造建築物に関する体系的な耐久設計手法を再構築することに対する要望が高まっている。また、近年普及が著しい中大規模の木造建築物や CLT パネル工法などの新しい木造工法に対する耐久設計法を示す必要も生じてきている。</p> <p>中大規模木造建築や CLT パネル工法を含む木造建築物に対する新しい耐久設計法を作成することを目的とする。</p> <p>初年度：木造建築物（戸建住宅規模）に対する既往の耐久設計法に関する分析を行う。また、ここ数十年の間に蓄積された知見を収集し、既往の耐久設計法の課題と修正点について整理する。CLT パネル工法などの新しい工法及び中大規模木造建築物（以下、「中大規模木造建築物」と呼ぶ）に対して現在用いられている耐久設計の考え方について整理する。</p> <p>2年度：前年度に整理した課題に基づいて、木造建築物（戸建住宅規模）の耐久設計法の枠組と項目を検討する。中大規模木造建築物に対する耐久設計の枠組と項目を検討する。</p> <p>3年度：木造建築物（戸建住宅規模）と中大規模木造建築物の耐久設計法を構成する各項目についてその具体的な内容について検討する。</p> <p>4年度：木造建築物（戸建住宅規模）と中大規模木造建築物に対する耐久設計法（案）を作成し、実物件を用いた検証を行う。耐久設計法の原案を作成する。</p>		
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：中島史郎（宇都宮大学） 幹事：古賀純子（芝浦工業大学） 委員：飯島敏夫（日本住宅・木材技術センター）、鶴飼 誠（日本 E R I）、 金澤光明（日本窯業外装材協会）、坂部芳平（日本 CLT 協会）、 村上知徳（三井ホーム）、宮野和樹（前田建設工業）、山崎肇（日本防水材料協会）</p>		
設置 WG (WG 名：目的)			
2020 年度予算	140,000 円	<p>ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： https://www.aij.or.jp/gakujutsushinko/a-000/a800-12/a840-12.html</p>	

項 目	自己評価
委員会開催数	4回（年度内計画を含む）
刊行物 （シンポジウム資料等は除く）	
講習会	
催し物 （シンポジウム・セミナー等） * 能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
<p data-bbox="188 1137 427 1227">目標の達成度 （当初の活動計画と得られた成果との関係）</p>	<p data-bbox="459 902 715 936">初年度の計画である、</p> <p data-bbox="459 936 1422 1037">① 木造建築物（戸建住宅規模）に対する既往の耐久設計法に関する分析を行う。また、ここ数十年の間に蓄積された知見を収集し、既往の耐久設計法の課題と修正点について整理する。</p> <p data-bbox="459 1037 1422 1137">② CLT パネル工法などの新しい工法及び中大規模木造建築物（以下、「中大規模木造建築物」と呼ぶ）に対して現在用いられている耐久設計の考え方について整理する。</p> <p data-bbox="459 1137 587 1171">について、</p> <p data-bbox="459 1171 1422 1249">① 木造建築物に対する既往の耐久設計の考え方、並びに、耐用年数の推定に関する既往の資料を収集し、分析を行った。</p> <p data-bbox="459 1249 1422 1350">② 木造建築物について、法令や制度等において定められている目標耐久年数と目標とする耐久年数を達成するため定められている建物各部の仕様について分析し、整理した。</p> <p data-bbox="459 1350 1422 1451">次年度以降は、本年度収集した資料等をもとに木造建築物（戸建住宅規模）の耐久設計法の枠組と項目を検討するとともに、中大規模木造建築物に対する耐久設計の枠組と項目を検討する。</p>
委員会活動の問題点・課題	特に無し